

# クラッシー

## CLASSY

発行 筑後八女地区 西日本新聞エリアセンター  
 企画 イースタンコミュニケーションズ  
 印刷 株式会社 東兄弟 TEL 0943-24-2111  
 八女市祈禱院563 〒834-0025  
 HP: www.dcity-yame.com

クラッシーのバックナンバー（2010.1.1号より）がインターネットでご覧になれます。  
 「デジタルシティやめ」→クラッシー→検索

# 3 MAR

	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT	
<b>1</b> 1月11日 大安 夢たちがな観梅会 (谷川梅林)	<b>2</b> 12日 赤口 べんがらの日(べんがら村) 大浴場お一人様300円	<b>3</b> 13日 先勝	<b>4</b> 14日 友引	<b>5</b> 15日 先負 弁護士無料法律相談 (福岡法務局八女支局) 要予約 ☎ 050-3383-5502	<b>6</b> 16日 仏滅 なんでも人権相談所 (八女市社会福祉会館)	<b>7</b> 17日 大安 谷口浩美講演会 (サンコア) ナイナイのお見合い大作戦 TV番組収録イベント 12:00~(八女伝統工芸館駐車場)	
<b>8</b> 18日 赤口 八女丘陵古墳群を 訪ねるみちウォーク (八女歩こう会) 採燈大護摩供 (星野村・麻生神社) ちっこマラソン大会 (筑後広域公園周辺)	<b>9</b> 19日 先勝	<b>10</b> 20日 友引	<b>11</b> 21日 先負 なんでも人権相談所 (筑後市勤労者家庭支援施設)	<b>12</b> 22日 仏滅	<b>13</b> 23日 大安	<b>14</b> 24日 赤口 筑後船小屋よかよか まつり(筑後船小屋駅一帯)	
<b>15</b> 25日 先勝	<b>16</b> 26日 友引 べんがらの日(べんがら村) 大浴場お一人様300円	<b>17</b> 27日 先負	<b>18</b> 28日 仏滅	<b>19</b> 29日 大安 弁護士無料法律相談 (福岡法務局八女支局) 要予約 ☎ 050-3383-5502	<b>20</b> 2月1日 友引 定例法律相談会(要予約) 10:00~12:00 (八女商工会議所) ☎ 22-5161	<b>21</b> 2日 先負 春分の日	
<b>22</b> 3日 仏滅	<b>23</b> 4日 大安	<b>24</b> 5日 赤口 無料弁護士法律相談 13:30~(八女民主商工会議室) 要予約 24-2727	<b>25</b> 6日 先勝	<b>26</b> 7日 友引 社会保険個別相談会 10:00~16:00(筑後商工会議所) 要予約 0942-33-6215 お風呂の日(特典あります) (グリーンピア八女)(公園の宿) (温泉館きらら)(べんがら村)	<b>27</b> 8日 先負	<b>28</b> 9日 仏滅 人生史サークル黄檗の会 (福祉会館) 川崎病院ミニ健康教室 (14:00~15:00) 「姿勢を良くする運動の話」 要予約 23-3005	
<b>29</b> 10日 大安 熊本・江津湖 バスウォーク (八女歩こう会)	<b>30</b> 11日 赤口 べんがらの日(べんがら村) 大浴場お一人様300円	<b>31</b> 12日 先勝	<b>心配ごと相談(八女市)</b> 八女市社会福祉会館 3月4日・18日 黒木町ふじの里 3月4日・18日 上陽町地域福祉センター 3月11日・25日 立花町かがやき 3月11日・25日  <b>法律相談(要予約)</b> 八女市社会福祉会館 3月13日 黒木町ふじの里 3月20日 上陽町地域福祉センター 3月27日			<b>司法書士相談</b> 黒木町ふじの里 3月13日 八女市社会福祉協議会 3月20日  <b>筑後市</b> 心配事相談 毎週木曜日/総合福祉センター 健康に関する総合相談 毎週金曜日/筑後市立病院	

「春暁の鐘が響くと告げてまし」石橋秀野さんの一句を想いつゝ、暦は早や三月。受験、卒業、蛸雪の功なりて、一息の春休み。新たなスタートへの準備、花の袂はほころぶ季節。▼さて、去る月、記憶にとめておきたいのは、黒木スキップ会(代表草場明治さん)の堀川バス・黒木を非行横行のたまり場を、子どもたちのギョラリへ。「パレット黒木」と称し、青少年健全育成への支援活動、チャイルド・ユースサポート章受賞。まさに一灯照隅の功、発想者草場さんの行動力に感服。▼中公新書「地方消滅」増田寛也著。都市一極集中、人口急減のレポートを八女の村里に住む我々は如何に考えるべきか。西日本紙はたゞちに反応。①「今日もひとり」日記一行94才のおばあさんは鹿児島南大隅。「人よかサルの方がうこ(多く)なった。」②日田中津江、カメルーン・キャンプ地 一時脚光の坂本元村長さんは広域合併の国策に腕ぐみ。③「学校は地域の宝」と分校を護り続ける篠栗町萩尾の策。▼「村はかつて人間の故郷であった。胸底のなかで村は青空をうかべ、地下水をこんこんとひめていた」と、村の詩人が過疎化に対し、うたった一作、四十余年前、この一篇を「地方文化の貴重な芽」と注目は評論家扇谷正造氏一人のみであったことを思いだす。

天宮ふんぷり 124  
 山桜  
 ほころぶ春に  
 詩人 椎窓 猛